

事務事業名	私道管渠整備事業					☐ マニフェスト関連		☐ 全庁横断課題関連	
政策名	総合計画 02	緑豊かな環境と共生するまちづくり				所属部	水道局	所属課	上下水道課
施策名	計画 08	水環境の保全				所属係	管理工務班	課長名	森 章礼
基本事業名	体系 25	水質の浄化				担当者名	田代 純児	電話番号 (内線)	248-1232 1197
予算科目	会計 50	款 02	項 01	目 02	事業	法令根拠	下水道法		
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度→全体計画の投入量を記入 ↳ (開始年度 S52 年度 ~) ↳ (年度 ~ 年度)								
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						全体計画(期間限定複数年度のみ) (単位:千円)			
(事業内容) ・受益地2筆以上の私道において、市民からの申請により下水道管渠を設置する。 (業務内容) ・①受益者代表より申請書一式の受付②測量設計委託契約③実施設計の作成④工事請負契約の締結⑤下水道工事⑥竣工検査⑦支払い事務 (予算の内訳) ・工事請負費、委託料						総投入量	事業費	国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源	
							事業費計 (A)	0	
							人件費	正規職員従事人数 延べ業務時間 人件費計 (B)	
							人件費計 (B)	0	
							トータルコスト(A)+(B)	0	

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

18年度実績(18年度に行った主な活動)

・私道管渠整備工事 2 箇所施工した。

19年度計画(19年度に計画している主な活動)

・私道管渠整備工事(申請箇所)

② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等

・私道に面している宅地

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

・水洗化が可能となる
 ・生活環境の改善

④ 結果(どんな結果に結び付けるのか)

・公共用水域の水質の向上

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 管渠布設延長	m
イ 整備面積	ha
ウ 樹設置箇所数	箇所

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 対象世帯数	戸
イ	
ウ	

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 下水道普及率	%
イ 水洗化率	%
ウ	

⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 市内河川のBOD基準達成率	%
イ	
ウ	

(2) 総事業費・指標等の推移

				単位	16年度 (実績)	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (見込)	20年度 (目標)	21年度 (目標)	22年度 (最終目標)
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円							
			都道府県支出金	千円							
			地方債	千円		3,880	16,150	11,400	11,400	11,400	
			その他	千円		204	850	600	600	600	
			一般財源	千円							
			事業費計 (A)	千円	0	0	4,084	17,000	12,000	12,000	12,000
	人件費		正規職員従事人数	人			4	6	6	5	5
			延べ業務時間	時間			450	600	600	600	600
			人件費計 (B)	千円	0	0	1,787	2,382	2,382	2,382	2,382
			トータルコスト(A) + (B)	千円	0	0	5,871	19,382	14,382	14,382	14,382
活動指標	アイウ	ア	m			128.8	125	125	125	125	
		イ	ha			0.39	0.4	0.4	0.4	0.4	
		ウ	箇所			7	8	8	8	8	
対象指標	アイウ	ア	戸			7	8	8	8	8	
		イ									
成果指標	アイウ	ア	%			98.3	99	99.1	99.2	99.3	
		イ	%			87.7	89	90	91	92	
		ウ									
上位成果指標	アイウ	ア	%			100	100	100	100	100	
		イ									

事務事業名	私道管渠整備事業	所属部	水道局	所属課	上下水道課
-------	----------	-----	-----	-----	-------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
 ・単独公共下水道・S52年、特定環境保全公共下水道・S58年、流域関連公共下水道・S59年に事業認可を受け、公共用水域の水質保全と生活環境の向上のために事業着手した当時より市民の要望により実施している。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？
 ・問題の無い箇所についてはほぼ整備済みである。(基本的に市民より申請事業である)

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
 ・私道及び受益地の所有者間で、承諾がとれず申請できないが整備はしてほしい。(持分登記等全員の承諾が必要)

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】⇒ ・家庭内汚水及び雑排水が下水道に接続可能となり、水洗化の整備が進み生活環境の向上となる。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】⇒ ・公共性が高く、民間ではサービスの提供が不可能。 ・受益地に、応分の受益者負担金も賦課されるので妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】⇒ ・管渠布設箇所は、下水道計画の区域であり計画区域の水質向上を図るため意図も適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】⇒ ・市全体の整備率が98%であり、成果の向上余地がある。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】⇒ ・本事業を廃止・休止すれば公共水域の水質汚濁につながる。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある ⇒【具体的な手段、事務事業】 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】⇒ ・類似事業が無い。 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】⇒
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】⇒ ・市民より申請事業であり計画的な事業執行(同時発注等)が出来ない。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】⇒ ・申請事業であり実働の業務時間であり削減の余地はない。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】⇒ ・応分の受益者負担があり適切である。 ・㎡当たり330円の受益者負担をいただいております、公平である。

合志市

事務事業名	私道管渠整備事業	所属部	水道局	所属課	上下水道課
-------	----------	-----	-----	-----	-------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり

(2) 全体総括(振り返り、反省点)

・未整備地区の整備に努める成果の向上余地がある。

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☒ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

・未整備区域の調査整理を行い計画的な整備に取り組む。
・未整備区域世帯を対象に私道等整備事業の説明会の開催。

(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上		○	
	維持			×
	低下		×	×

(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

・私道の所有者(持分登記)間のトラブル等で申請が出来ない。

4 事務事業の2次評価結果

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

① 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)

- ☐ 記述不足でわかりにくい
- ☐ 一部記述不足のところがある
- ☐ 記述は十分なされている

② 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)

- ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない)
- ☐ 一部に客観性を欠いたところがある
- ☐ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)

(2) 2次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり

(3) 評価結果の根拠と理由

(4) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

(5) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持			×
	低下		×	×

(6) その他2次評価会議で指摘された事項